

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と確かな学力の育成を目指す。特に数学では、習熟度別授業の特性をいかし、個の能力に応じた学力の定着を図る。 毎時間の授業で授業スタンダード（始めにねらいの提示をする。→ねらいに合わせた振り返りをしてまとめる）の徹底をすべての教科で行う。
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> 小グループにおける教師相互の授業観察を行う。 ディスプレイ型電子黒板とホワイトボードを併用し、見やすく分かりやすい授業を目指す。 一人1台のタブレット端末を活用し、自学自習の意欲を促す。また、長期休業中の課題や、授業内、家庭にて取り組めるデジタルドリル等の課題を提示する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<p>新宿区学力定着度調査において、「知識・技能」は区平均を上回っている。3年生の「思考・判断・表現」の分野で区平均を下回った。特に「書くこと」領域の正答率が区の平均を著しく下回っており、今後の課題である。2年生においては、書くことの領域で区平均を9%上回っている。</p>	<p>「知識・技能」の向上を目指して、日々の家庭学習（漢字練習や意味調べ）を今後も継続させる。また、自分の考えを書く際に、なぜそのような考えになったか根拠を明確にするよう指導していく。それに伴い、文章読解や自分の考えをまとめる際に用いる語彙を豊かにする取組を行う。</p> <p>書くことの領域においては、本文の内容整理を行った後に、自らの考えが明確になるように、語と語や文と文とのつながりに注意して書くことを意識させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習の継続 ②デジタルドリルの活用 ③国語辞典の活用
数学	<p>新宿区学力定着度調査において、3年生は、各観点、ほとんどの領域において区平均を下回っている。観点では「思考・判断・表現」、領域では「関数」が課題である。2年生は各観点、区平均を上回っている。</p>	<p>「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の向上を目指し、授業内では問題演習に割く時間を多く確保する。また、家庭学習などの課題では、反復して取り組めるデジタルドリルなどを今まで以上に活用していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習の定着 ②授業内での問題演習時間の確保 ③デジタルドリルの活用 ④復習テストによる定着度の確認
理科	<p>新宿区学力定着度調査において、2・3年生の観点・領域とも、区平均を上回っている。</p>	<p>実験・観察を通して、興味・関心を生徒にもたせることで、科学的な原理・現象の理解を深めさせる。また、生徒が主体的・対話的に取り組めるような授業を目指す。ICT機器を活用して、協働的な授業を行うとともに、個別最適な授業を工夫して行い、基礎・基本の知識の定着と深い学びの実現を図る。また、応用力を付けるために、「思考力・判断力・表現力」の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器の活用 ②協働学習支援アプリの活用 ③デジタルドリルの活用 ④確認テスト（復習テスト）
社会	<p>新宿区学力定着度調査において、3年生は、2観点とも、また歴史的分野で区平均を下回っている。特に、「思考・判断・表現」の向上と歴史的分野の基礎学力の定着が課題である。2年生は、領域では地理的分野・歴史的分野ともに、観点・領域ともに区平均を6ポイント以上上回っている。</p>	<p>「知識・技能」の定着・向上のために、復習小テスト・ICT機器の活用等、基礎知識を反復して定着させる機会を設ける。思考して得た基礎・基本の知識は定着しやすいため、活動型授業（調査→思考→アウトプット）を深化させ、生徒の「思考・判断・表現」をより高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器活用 ②復習問題演習時間の確保 ③デジタルドリルの活用 ④復習単元テスト・ワークを行う
英語	<p>新宿区学力定着度調査において、2年生の「知識・理解」、「思考・判断・表現」の観点共に区、全国の平均を上回っている。3年生は「聞くこと」の正答率が他と比べて低いことが課題である。</p>	<p>英文を聞く上で、帯学習等で継続的にまとまりのある英文を聞く活動に取り組みせ、聞き取るポイントを意識して聞く学習を授業の中に取り入れていく。また、音読活動も増やすことで、英語を聞く力の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①リスニング活動（帯学習） ②聞き取るポイントを意識させた上で英語を聞く活動を増やす。 ③授業中での音読活動を増やす。